



## 平成29年第4回市議会(12月議会)が開かれました。

12月4、5、6日に本会議が、12月12日に文教委員会が開かれ、教育に関する諸問題について質疑応答がありました。主な答弁内容は、次のとおりです。

### 学力の向上について

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査において、「授業の内容がよくわかること」「ノートに自分の考えを書くこと」等の項目では府平均を上回り、北摂地域と比べても、同等または上回っており、本市の授業改善の取組が進んでいるものと考えています。

また、正答率40%未満の下位層の割合が減少していることから、マイスタディの取組も含め、個に応じたきめ細かな指導の成果が表れているものと捉えております。今後もきめ細かな指導を充実してまいります。

一方、家庭学習の時間や読書の時間が北摂地域より少なくなっております。家庭での学習・生活習慣の確立が課題であると認識しております。

今後、小中が連携し、「堺版授業スタンダード」等を活用したさらなる授業改善を進めるとともに、少人数教育によるきめ細かな指導を重点取組として、総合的な学力の向上に取り組んでまいります。

### 性暴力防止対策の今後の具体的な取組について

事案発生時には、課題対応のためのワーキンググループを設置し、被害者支援や学校に対する指導支援に組織的に取り組むとともに、ネットいじめ防止プログラムの中に、サイバー空間や公的空間における性暴力の問題についても取り上げてまいります。

今後とも、性暴力の未然防止対策及び事案が発生した場合に適切な対応が行えるよう、関係部局はもとより、弁護士などの専門家や医療機関等と連携する専門家会議を、第三者機関として設置することを検討してまいります。

### 第一幼稚園と堺市幼児教育方針について

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであります。

幼児教育の推進にあたっては、今後、保育需要の急激な高まり、幼児教育の無償化の動き等、教育・保育施策を取り巻く状況の変化や様々な教育課題への対応が求められているところです。支援を要する園児の受け入れ等も含め、就学前教育に係る公の役割をあらためて認識するとともに、市民の意見やニーズも踏まえながら、計画性を持って進める必要があると考えております。今後、認定こども園を所掌する子ども青少年局と十分連携し、ソフト面・ハード面も含め、本市全体の就学前教育のあり方について早急に検討してまいります。

### **性的マイノリティに関する教育委員会の今後の取組について**

学校園において、性的マイノリティに関する理解を更に深めるため、今後とも、教職員や保護者を対象とした研修などを継続的に実施するとともに、児童生徒への理解促進のため、次年度、全校に啓発用ポスターの掲示を検討しています。

### **堺市いじめ防止基本方針の改定について**

文部科学省は、平成29年3月14日に、「いじめ防止等のための基本的な方針」を改定しました。

本市においては、国の基本方針を参酌し、「堺市いじめ防止基本方針」の改定に取り組んでいるところです。

また、平成29年12月18日から平成30年1月15日の約1カ月間、パブリックコメントを実施いたします。

その後、平成30年2月の教育委員会の議決を経て、「堺市いじめ防止基本方針」を改定する予定となっております。

### **堺高校定時制のあり方について**

堺高校の定時制課程は、これまでも社会におけるセーフティネットとしての機能を果たすとともに、少人数の生徒を担当するチューター制の導入など特色ある取組を進めています。

一方、半径1kmの範囲に3つの定時制高等学校が立地しており、各学校とも、定員割れが生じ、中学校卒業生数の増加も見込めない状況もあります。

今後の市立高等学校の定時制課程については、社会経済状況の変化に対応していく必要があり、今後のあり方を検討してまいります。

### **日本語指導の課題と今後の取組について**

日本語指導を必要とする児童生徒が抱える課題としましては、日常生活には大きな支障がない児童生徒であっても、学習場面を十分に理解できないなど、生活言語と学習言語の習得に差があることがあります。

また、母語によっては、対応できる自立支援日本語指導員の登録が少ない状況もあり、関係機関と連携しながら、指導員の登録を呼びかけ、日本語指導を必要とする児童生徒の実態に応じた支援を行ってまいります。

また、日本語指導教員については、現在行っている研修や情報交換の場を充実させ、教員のスキルアップを図ってまいりたいと考えております。

### **布製ランドセルの使用に関する教育委員会のこれまでの取組状況及び今後の取組について**

布製ランドセルを使用している2小学校に対して、布製及び革製ランドセルの使用状況等について聞き取り調査を行うとともに、小学校長会で情報提供のうえ意見聴取を行いました。

また、小学校長会と幼稚園長会において布製ランドセルについて周知するとともに、9月の幼稚園PTA協議会、10月の堺市PTA協議会で布製ランドセルの特徴等について

説明する等、通学カバンについて保護者の選択の幅を広げるよう情報提供に努めてまいりました。

現在布製ランドセルを使用している2小学校について、布製ランドセルに関する定量的、定性的な検証方法を検討し、保護者への情報提供にいかしてまいります。

また、今後とも引き続き、保護者の選択の幅を広げるべく、小学校長会、幼稚園長会と連携して、就学前健診や入学説明会の機会等をとらえて、布製ランドセルの情報提供に努めてまいります。

### **小学校38人学級の効果について**

「小学校教育支援加配」については今年度からの実施であり、その効果は、今後検証することとなります。

現段階では、事務処理等の負担軽減により、一人一人の児童と関わる時間が増え、静謐な学習環境の中で、児童が落ち着いて学習に取り組むことができたとの教職員の声や、一人一人の児童への指導が行き届いているとの保護者の声が寄せられております。

### **学校司書配置の今後の方向性について**

全国学力・学習状況調査によると、本市の児童生徒の1日30分以上の読書時間は、全国平均より小学校で6.5ポイント、中学校で7.1ポイント少ない状況にあり、児童生徒の読書習慣の定着には、家庭との連携とともに、学校図書館の充実を図ることが重要であると考えております。

今後は、今年度中学校へ配置した学校司書の効果検証を行うとともに、小学校への配置の拡充を検討し、子どもたちの読書活動や学習活動を促進するため、「いつでも開いている・使える・人がいる」学校図書館の実現をめざしてまいります。